

ずいそう

その町と人の在り様

田中辰明



小学生の頃見た“江夏の21球”以来、広島カーブの大ファンとして過ごしてきました。しかしながら広島近郊に在住していたわけでもなく、思い出す限りテレビとラジオのみの接触だったと思います。観戦の機会に恵まれた頃には、ファンというよりはどうせ見るなら広島戦程度の情熱で、これといった感慨はありませんでした。

そのような折、来年から新球場になると知り、忘れていた広島カーブと広島市民球場への関心が俄かに高まりました。何としても青空のもとで観戦したい！その思いを実行すべく、チケットや宿の手配は後回しに天気予報のみの確認で新幹線に飛び乗りました。

広島駅から路面電車にゆられ市内をゆっくりと抜けて行くと、野球観戦であろう家族連れも増えていきます。球場界限まで近づくにつれ応援団をはじめとした赤い人波が押し寄せ、喧騒と共に気分も盛り上がります。赤く波打った情景は、原爆ドームやオフィスビル、露天や商業施設、街の喧騒や野球に関心のない人の流れ、それら多くの事象と渾然となる事で何とも不思議な空間をかもし出しています。祭りの熱気や際立ちとは違うこの界限の息遣いの一つとして、ごく自然に穏やかな盛り上がりが形成されます。この町と人とのありふれた景色なのでしょう。

球場内では、大観衆に抱かれた選手達が伸びやかにたたずんでいます。思い入れのあるベテラン選手も見受けられ、私以上に長く熱い思いを持った方々の大声援を受けていました。他のすべての選手にも多大な愛情を注いでいるファンの方々を見ていると、数万人規模の皆が近所の知り合いのような大家族のような、豊かな安堵感を覚えます。御世辞にも綺麗とは言い難く座席も狭い球場ですが、客席と選手の距離は近く、陽を浴びた天然芝と水をふくんだグラウンドの美しさは際立っています。雲や風の流を感じる事ができ、弁当やお好み焼きの匂いと煙草やビールの匂いに刺激され、乾いた打球音もボールがミットに納まる音も野次さえも心地良く耳に響きます。

また、試合後の帰路は電車やバスを利用する徒歩の人々が圧倒的に多く、近隣のアーケードや繁華街へと

人波が分散して行きます。イベント後にありがちな帰路に集中せざるを得ない煩わしさとは無縁で、観戦のためだけの移動とは別物になっています。その日一日を楽しく過ごすための一過程なのでしょう。

このように試合内容とは別の多くの事象に五感を満たされ、その町に温かく抱かれたこの心地良さは、永年にわたって培われてきたこの町や人々の貴重な財産だと思えます。一朝一夕には形作れないものでしょうし、昨今メディアで取り上げられる事の多い地域密着型プロスポーツの理想形なのでしょう。サッカーやアイスホッケーなどのプロ化で地域密着の理念がうたわれていますが、関係者の方々が一番渴望されている事であり日々模索されている事であると思えます。

ひとつ残念な事は、プロスポーツの経営は厳しいものらしく、その多くが経済規模の小さい地方のチームであるという事です。資本力の差は埋めるすべが限られているのでしょう。自助努力が第一という考えが大前提とは思いますが、前述の広島でさえ経営格差の前に優勝争いなど考える余地がないように見受けられます。このような状態が長く続けば、今現在の心地良い地域密着の果実さえ痩せ細っていく気がしてなりません。私の住む町の近隣にもいくつかのプロスポーツの本拠地がありますが、その多くが明らかに苦戦しています。こういった弱小チームの手助けに、経済格差や地域間格差を埋める事も有効な手段の一つではないかと、そう思います。昨今の地方分権や格差是正等々の論議が熟成され良い作用を及ぼして欲しいものです。

取り壊される予定の広島市民球場を見ていたら、失われるかもしれない事象を考え幾分感傷的な思いに至りました。もちろん、新たに生まれるであろうものも多々あると想像しています。私自身も自分の住む町では一市民として地域に根ざしており、変わるもの変わらないもの双方を受け入れ積極的に過ごしており、それを楽しみとして持ち続けています。広島で感じた事を良き糧として、心地良い町と人の在り様を模索していきたいものです。何らかの施策の可能性も期待しつつ。